

釧路市教育委員会 令和4年第13回6月定例会会議録

- 1 日時：令和4年6月29日（水）13時30分から14時50分まで
- 2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室
- 3 出席者  
岡部義孝教育長  
(教育委員)  
山口隆委員、種村俊仁委員、松尾千穂委員、小出美貴子委員  
(事務局)  
齋藤学校教育部長、工藤生涯学習部長、大山教育指導参事、早坂学校教育部次長、池田総務課長、富田総括指導主事、森教育政策主幹、澤口生涯学習部次長、島スポーツ課長、鈴木動物園長
- 4 議事録署名人 松尾委員、種村委員
- 5 傍聴人数 0人
- 6 提出案件

【公開案件】

報告事項

- (1) 令和4年第3回釧路市議会6月定例会の議決結果について
- (2) 令和4年第3回釧路市議会6月定例会の審議内容について
- (3) 一般社団法人釧路青年会議所との連携協定に基づくキャリアシンポジウムの開催結果について
- (4) 「釧路市がめざす学校のすがた基本計画（たたき台）」に関する各種懇談会について
- (5) 学校の現状について

## 7 会議内容

### 【公開案件】報告事項

#### (1) 令和4年度第3回釧路市議会6月定例会の議決結果について

(池田総務課長)

総務課から、令和4年度第3回釧路市議会6月定例会の議決結果について報告する。

先月の教育委員会においてご承認いただいた3件の補正予算案の議案については、記載のとおり、すべて原案どおり可決されたことを報告する。

### 【公開案件】報告事項

#### (2) 令和4年第3回釧路市議会6月定例会の審議内容について

(齋藤学校教育部長)

令和4年第3回釧路市議会6月定例会の審議内容について報告する。

創志会、大越拓也議員から、「釧路市がめざす学校のすがた基本計画」に関し、検討委員会の議論における前回と今回の違いや、施設一体型の義務教育学校の成果と今後の可能性についての質問があり、今回の検討委員会では、子供たちにとって最適な教育環境を確保するために学校は今後どうあるべきか、という観点で議論を深めてきたことが大きな違いとなっていることをお答えした。また、施設一体型の義務教育学校が目指す効果については、前期課程と後期課程の相互乗り入れ授業により、前期課程の教員のきめ細かな指導と後期課程の教員の専門的な指導の相互の良さを生かすことができ、学力や学習意欲の向上が期待できること、さらに阿寒湖義務教育学校の事例として、児童生徒が協働して運動会を運営する中で9年生の競技を1年生が企画したり、5年生と8年生が参加する宿泊研修において、あえて5年生が中心的に企画する活動を設定するなど、リーダー性や主体性の成長を促す工夫が行われていること、教職員全体で子どもの情報を共有してそれぞれの15歳の姿をイメージしながら教育を行っていることを紹介し、今後の可能性として、これらの事例を後続の義務教育学校でも展開することで課題の解消や緩和に取り組んでいきたいとお答えした。

市民連合議員団、板谷昌慶から、教員の労働環境が与える児童生徒への影響に関し、コミュニティ・スクールにおいて教員の勤務実態や働き方改革について協議してもらうことが必要ではないか、部活動の地域移行に向けた取組、教員のオーバーワークによる児童生徒への影響の軽減などについての質問があった。これに対して、コミュニティ・スクール協議会に示している各学校の経営方針には、教職員の働き方改革に関する目標を含んでおり、これまでも協議いただいていること、各学校において業務改善や働き方改革に関する項目を設定し、達成状況を把握し改善を行っていること、部活動の地域移行については教員に代わる指導者の人材確保が難しいため、「学校ボランティア」の活用が可能かを含めて、現状や課題を整理したいと考えていること、教員のオーバーワークによる児童生徒への影響については、教員が現場を離れる場合は教育委員会と校長で協議し、現場に不具合が出ない体制をとっている

といったようにお答えした。

公明党議員団、月田光明議員については、市長総括の項目で報告する。

自民市政クラブ、大澤恵介議員から、北陽高校における金融・経済に関する授業はどのように変わるのか、金融リテラシー・マップで示された年齢層別目標は達成されているのかについてのご質問があった。これに対して、北陽高校では新たに家庭科の中で、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴や、生涯を見通した経済計画についての指導が記載されたこと、「金融リテラシー・マップ」については、各教科等の学習指導要領に関連する内容で、概ね目標が達成されていると捉えているとお答えした。

自民市政クラブ、三木均議員から、小中連携・一貫教育の推進に関し、施設一体型の義務教育学校と中学校区を単位とした小中連携では差が生じないか、コミュニティ・スクールの導入計画についてのご質問があった。これに対して、施設一体型の義務教育学校のみならず、既存の小中学校においても小中一貫教育をしっかりと進め、義務教育の9年間を一体として捉えた連続的・系統的な教育に取り組んでいきたいこと、コミュニティ・スクールの導入率については、第3期の教育推進基本計画の中で全校における導入を見据え、策定委員会において協議していきたいとお答えした。

総務文教常任委員会の市長総括審査においては、共産党議員団、西村雅人議員から、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、給食費の額を令和3年度の額に戻してほしいとのご質問があった。これに対して、令和4年度の給食費の値上げは平成30年度以降の食材費の高騰を踏まえたものであり、今回の補正予算「給食食材高騰対策事業」は、コロナ禍における物価高騰に伴う保護者の負担増を軽減するためのものであるとお答えした。

公明党議員団、月田光明議員から、釧路市がめざす学校のすがた基本計画における不登校特例校の位置付けについてのご質問があった。これに対して、不登校特例校の意義や役割については、教育施策全体を網羅し、上位計画ともいうべき釧路市教育推進基本計画に位置付けるのがふさわしいと考えているとお答えした。

公明党議員団、月田光明議員から、学力目標設定の考え方に関しては学校ごとに課題を見出し、実態に合った目標や解決への取り組み方についてのご質問があった。これに対して、学校ごとに全国学力・学習状況調査に関するポイント区分を1つでも上げることができるような目標を設定することができないか、策定委員会の中で議論していきたいとお答えした。

共産党議員団、梅津則行議員から、釧路市がめざす学校のすがた基本計画に新校舎の整備の予定を入れることで、学校施設の老朽化の課題の解消もできるのではないかとのご質問があった。これに対して、釧路市がめざす学校のすがた基本計画は、子どもたちにとって最適な教育環境を提供することを目的とした計画で、再編後に使用する学校施設については、必要な機能が適切に備わっているかを検討し、必要に応じて整備をすることで、役割を果たすことができると判断したとお答えした。

(工藤生涯学習部長)

生涯学習部に関わる一般質問の概略を説明する。

自民市政クラブ、伊東尚悟議員より、運動習慣の指標としてスポーツ実施率を導入し、KPIとそれを達成する施策を定めるべきであり、地域おこし協力隊を活用したスポーツコーディネーターの設置を検討するべきではないかとのご質問があった。これに対して、実施率を調査する考えは持っていないものの、釧路市スポーツ推進競技会が5年に一度実施するアンケート調査で実施率を把握している、またスポーツ実施率の向上に向けた取り組みを本年度に実施する社会教育推進計画策定委員会の中で、具体的な施策として位置づけられるか議論していくことと、地域おこし協力隊については様々な場面で活用していくことは地域における有効な施策であると認識しており、他都市の状況なども参考に人材の活用について研究していきたい旨をお答えした。

日本共産党議員団、工藤正志議員より、旧市立図書館について、解体も含めて現在どのように考えているのかのご質問があった。これに対して、平成23年度の耐震診断において耐震改修が必要であると判定され、現状のままでの使用は困難であり、さらには仮に建物を解体した場合、当時の試算で約1億9千万円の工事費がかかることから、財源確保も含め、解体については難しい旨をお答えした。

市民連合議員団、佐藤勝秋議員より、旧市立釧路図書館の今後の在り方と、旧青少年科学館について解体を含めた今後の利活用について、市の考え方を示してほしいとのご質問があった。これに対して、旧市立釧路図書館や旧青少年科学館についても財源が見いだせない中で解体することは相当難しい旨をお答えし、教育長より社会教育施設は補助制度や起債制度がほとんどなく、教育委員会の上部団体を通じて、国や北海道、道教委にも要請しており、色々なご指摘も踏まえて今後引き続き検討していきたい旨をお答えした。

日本共産党議員団、梅津則行議員より、先行して都心部へ配置した中央図書館はまちづくり・地域づくりにどれくらい効果があったのかのご質問があった。これに対して、地元の商店街と連携した講座やこども遊学館や美術館と連携した事業を実施するなど、中心市街地への人の流れを創出する取り組みを進めてきた旨をお答えした。

自民市政クラブ、草島守之議員より、スポーツ合宿誘致に関して、釧路が目指す姿や描いている目標、スーパーバイザー協議会の果たす役割などについて示してほしいのご質問があった。これに対して、スポーツ大会や合宿が盛んにおこなわれることは、スポーツ振興の観点において有効な取り組みであると認識し、これまで冬季スポーツの合宿を中心に行ってきたが、近年は夏場における屋外競技のニーズも高まってきており、誘致活動を積極的に行っている。また、スーパーバイザー協議会については、これまで以上に幅広く誘致活動に取り組む組織としたところである旨をお答えした。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

学校のあり方検討委員会についての質問に対して、子供にとっての理想の学びの環境がど

うあるべきかということを中心にした教育委員会としての考え方は、総論として議会の理解を得ることができ、一步前に進めたように思う。

【公開案件】 報告事項

(3) 一般社団法人釧路青年会議所との連携協定に基づくキャリアシンポジウムの開催結果について

(早坂学校教育部長)

当シンポジウム開催当日は教育委員の皆様にもモニターで観覧いただきながら、市内のすべての中学1年生を対象に、前半に島本理事長と岡部教育長をパネラーにして「学ぶこと 働くこと そして生きること」をテーマに生徒との対話を行った。どうすればやりがいや芽生えるか、これまでどのように課題を解決してきたかなどの数多くの質問があり、中には回答者が唸るような質問もあった。後半は前半のトークセッションの内容を踏まえ、働く目的や意義、自分の社会的な役割、生きがいなどについて、話し合いを通じて振り返り学習を行った。

シンポジウム後のアンケート調査では、シンポジウムの内容がよく分かった・分かったと回答した割合が8割以上、なんのために働くか自分なりに考えることができたという回答した割合が9割を超え、昨年度の同様の調査と比較して、生徒の理解度が深まったのではないかと考える。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

去年の子供たちに比べて受け止め方が先進したように感じる。校長会では子供たちが参加する上での考え方や方向性に関する綿密な取組みがあったようで、参加する意図の説明をはじめとした教育委員会からの伝達を受け止める対応が、各学校でよくできていた。各学校や校長会のおかげで、子供たちの受け止め方が先進した結果に結び付いたと考えられるため、教育委員会が各学校の取組みを評価している旨を、ぜひ現場に伝えてあげてほしい。

(松尾委員)

リラックスしている雰囲気、緊張感よりも生き生きとした様子が見て取れ、具体的な質問が出ていたのもよかった。今回参加した1年生が、2年生になって来年同じ内容でもう一度実施してみると、さらに深い内容の話ができるのではないかと思った。来年の新一年生も同じ取り組みを行うことは、すべての子供たちが経験できるという点でよいことだと思う。

(小出委員)

働くことに前向きな子供が少ないという印象を持っていたが、積極的かつ明るい様子で具体的に前向きな質問をしている子供たちの姿を見て、シンポジウム以前からの先生との関わり方の違いなどが関係しているのではないかと思った。また、「働くことは悪いことばかりではないのかもしれないと思った」という感想を読んで、働くことを前向きにとらえてくれる

子供が増えるのであれば、シンポジウムを行うことに意義があると感じた。今回のシンポジウムでは学校の先生も一緒に考えて取り組む形式を用いたことで、先生たちもその意識を持ちながら毎日取り組むことができるようになるという意義があったのではないかと思った。

(大山教育指導参事)

中学校長会の事務局長が、キャリアシンポジウムの目的や参加する際の心構え等が書いてある指導案を作って各学校に配布しており、教育課程に位置づいたため、来年以降で担任が変わったとしても同じような形でシンポジウムを行うことができると思う。

(種村委員)

今回は「やめたいと思ったことはないか、なぜ続けてこられたのか」といった質問があり、生徒たちと本音のやり取りができており、昨年に比べて磨きがかかったように思う。教育長や民間で働く方との関わりを通じて、釧路に対しての親しみが芽生え、将来釧路で働きかけになるかもしれない。これからいろいろな形に発展させていき、子供たちにとって良いものにしていけるとよいと思う。

(岡部教育長)

アンケート結果も含め体感として去年に比べて理解を得ている割合が高まっているように感じた。先日行われた教育推進基本計画の策定委員会で、リモートでの大人数が同時に参加できるような取り組みも良いが、対面の取り組みも必要だというご指摘をいただいた。今後はキャリアシンポジウムを起点に、その他のキャリア教育とどのように結び付けていくかということは検討が必要と考えている。

#### 【公開案件】報告事項

(4) 釧路市がめざす学校のすがた基本計画(たたき台)に関する各種懇談会について

(森教育政策主幹)

私からは、『釧路市がめざす学校のすがた基本計画(たたき台)に関する各種懇談会について』報告する。

資料の1つめに基本計画(たたき台)に関する各種懇談会の開催予定一覧を記載している。地域懇談会は、7月4日月曜日開催の興津小学校を皮切りに、7月28日の青陵中学校まで14日間、14会場で実施する。釧路市PTA連合会との懇談は、7月29日金曜日に、釧路市生涯学習センターにて開催する。釧路市小中学校校長会とは、7月12日火曜日に、小中学校教頭会とは7月15日金曜日に、それぞれ教育研究センターにて懇談会を開催する。それぞれの懇談会においては、まず基本計画たたき台の内容について説明し、参加された皆さまからご意見等を頂きたいと考えている。

2つめに懇談会の周知方法を記載している。連合町内会には、お配りしたピンク色のチラシを町内会加入者全戸に配布した。また、広報くしろや釧路市のホームページ、LINE、Facebookを用いて周知を図っており、LINEは6月20日に通知し、7月に入ってから毎週月曜に送るようにしている。

今後は、地域懇談会にて頂いた意見を学校のあり方検討委員会にお伝えし、地域懇談会の意見を踏まえた検討委員会としての最終答申を8月にいただくこととしている。市教委としては、9月には鉏路市がめざす学校のすがた基本計画の素案策定を行っていきたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

いずれ新陽小学校の校舎が使われなくなって、鳥取小学校と統合する。近隣の鳥取中学校、昭和小学校、新陽小学校、鳥取小学校の4校の連携がこれから必要になるので、統廃合にかかわる近隣学校の保護者が新陽小学校の話し合いに参加できれば、話が見えてくると思う。そのため、当該学校に関連する学校の保護者にどこでどのような内容の話をするのかを周知すれば、より多くの人に参加してもらえるようになると思う。今までの地区別で行っていた教育懇談会では、会場校以外の先生や保護者が行きにくい傾向があったようなので、配慮・改善いただきたい。

(森主幹)

今後、ホームページ、LINE等で発信していく情報に関して、直せる箇所は修正して紹介していく。

#### 【公開案件】報告事項

##### (5) 学校の現状について

(大山教育指導参事)

「信頼」に基づいて説明する。

学校職員の定年引上げについての検討案が示され、定年延長が現実に近づいてきたため、校長先生方の60歳以降の在り方について話したが、様々な面で検討が必要なところが出てくると思う。

中学校の修学旅行や宿泊研修がほとんど終わったが小学校はこれからなので、コロナウイルス感染の防止策に関する情報を中学校から小学校へ共有をお願いしている。

期限付き教員が不足している。鳥取西中学校の音楽の先生が休まれており、全道で代替の先生を探したが見つからなかった。中学校長会で鳥取西中学校に派遣できる先生を探していただき、北中学校の再任用の先生がフルタイムで働くことで1年、現在は阿寒中学校と美原中学校の先生に交代で入っていただいている。何とかカバーしている状況ではあるが、年度途中で体調を崩される先生がいるかもしれないため、期限付きの先生を引き続き探していきたいと教育局に要望を出している。

学校のあり方については、資料を各学校にメールで配信し周知し、学校で開催する「地域懇談会」での対応をお願いした。校長会から地域懇談会に参加したいとの話があり、校長に

質問が行った場合には、市教委で質問に答えることとしている。

公立高等学校の適正配置について、令和6年度から釧路湖陵高等学校の普通科が新学科になる背景や新学科の概要など、釧路市の子供たちの将来にかかわる今後の進路指導に生かしてもらうため、小学校の校長先生にも情報提供をした。

一次訪問のまとめについては7月定例校長会議で説明する予定であるが、小中ジョイント推進するうえで、中学校の先生方にとって「空き時間」というのは「教材研究」をするための非常に大切な存在で、「空き時間」が減ることに抵抗感を持つ先生がいることがわかった。

コンプライアンスの徹底について、これまでも教員による「酒気帯び運転」「交通事故」「住居不法侵入」など事件が発生しているため、再度、指導をお願いした。

その他の連絡事項として、デジタル教科書の研修会について、小中連携研修について、各種調査のお礼、キャリアシンポジウムのお礼、最後に教頭試験受検者について書いてある。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

校長経験者が再任用で一般の先生として働く場合、勤務校以外で働くケースが多い。一方、役職定年で定年延長として働く場合に勤務校に残って働くケースがあるが、この場合に生じる不都合にはどのように対応しているのか。

(大山教育指導参事)

再任用を希望する場合、その校長先生の適正に応じたポジションで働いてもらっている。再任用、定年延期どちらの場合でも、校長をしていた学校で一般教員として働くことがないよう、教育局の方をお願いをしている。

(山口委員)

議会で質問があったように、小中ジョイントに関して義務教育学校とその他の小中連携では差が出るのが考えられる。今後は小中連携がさらに必要になるため、コミスクの機能を最大限活用しながら、中学校の先生の空き時間が少なくなる問題に、意識改革も含めて十分な説明をして理解を得る必要がある。担任を持つ小学校の教員には空き時間がほとんどなく、この感覚を中学校の先生に理解してもらうためにも、多くの先生方に小中両方を経験してもらうことが今後必要になると思う。地域の住民としてコミスクに関わっており、地区内で教育に差が出ないように工夫しているが苦心している。